



「『年輪経営』企業を目指す」と語る小倉社長



重要保安部品の検査。特別な資格を保有することを示すマークを付けた社員だけが行える重要な作業

社員の幸せと社会への貢献を第一に！

戦前に金属加工に転身した百年企業

栃木県南部の足利市は、室町幕府を開いた足利家の発祥の地であり、古くからの絹産地で、織物業が盛んだった。ここで金属加工業を営むのがオグラ金属(株)（小倉勝興社長）だ。同社の起源は1922（大正11）年、小倉徳太郎氏が繊維業を始めたことにあり、来年創業100年を迎える。38年、時代の流れでプレス業に転身して小倉鉄工所となり、戦後はグループ会社を設立して金属加工の幅を広げていった。

90年にはグループ3社を合併。新造成の足利東部工業団地に93年、市内の4工場を集約した。その結果、さまざまな金属加工が一貫生産可能となり、「金属加工で、できないものはない」が合言葉の金属加工のショッピングモールができた。

現在、自動車、アミューズメント、環境機器、鉄道車両の4分野の部品加工を主に手がける。鉄、ステンレス、アルミなど各種金属のプレス板金等の機械加工、溶接、塗装、組立、ステンレス酸洗、アルマイトなどの生産体制がととのう。

また、単なる下請で終わりがたくなし、小倉光司・三代目社長（現社長の父）は、「自社製品開発に積極的に取り組み、『量産品は海外に行ってしまうから開発が大切』と訴えた。その精神を現社長も受け継ぎ、新商品開発専任のチームで探索ロボットなどを開発。昨年4月、このチー

ムを基礎にAI、IoT分野の開発を手がける「先端技術研究所」を社内新設した。探索ロボットの商品化のほか、開発過程での知見を基に工場内の予防保全システムの開発や現場の改善、ひいてはDXにも取り組む。

現社長は、2010年に就任。副社長時代にはリーマンショック、社長就任後は東日本大震災に遭遇。13年にはタイへの工場進出と、太陽光発電事業を立ちあげる。さらに19年の台風19号では工業団地全域が水没し、操業停止を余儀なくされたが、自社生産技術部門が中心となり社員総出で復旧に当たり、4日後には操業を再開させた。この組織力も同社が長年培ってきたものだ。なお、これを機会に20年から3年計画で新規設備を導入し、加工能力を倍増する。

「5Sの街・足利」の顔として



5S活動では社員の「遊び心」を大切に、見える化だけでなく「魅せる化」に取り組む。「見学者も多く、楽しく取り組んでいることで、継続的な改善につながっている」という。左は資格取得者の一覧で、技能習得のモチベーションにつながる。右はラーメン屋に見立てた掃除道具置き場。掃除道具も目立つ場所に置くことで、きれいな片付けにつながる



大型プレス機6台が並ぶ



ファイバーレーザー・パンチ複合機。パンチングとレーザー加工が一気に行える



ファイバーレーザー溶接機。2020年に新規導入された設備で、高速加工により熱歪みが少なく、従来より精密な加工が可能になる



アルミ溶接。アルミは鉄より軟らかく溶けやすいため、高度な技術が必要とされる。同社は専門資格を有する技術者を数多く擁しており、同社の強みの一つとなっている

「金属加工のショッピングモール」を実現



関連会社オーエムシー(株)が開発・販売する「LIVRU(ライブラ)」から「セラピー」に。セラピーの専門家と共同開発したLED照明で、色をリモコンで自由に変えることができ、ヨガ、フィットネスなどにも導入されている



LED電照栽培システム「saisou®(サイソー)」。栃木県農業試験場との共同研究で菊の花芽分化抑制に効果的なLEDの波長・光強度を解明。そのデータを基に、宇都宮大学とも連携して、電照装置を開発、システム化した(同社提供)

企業データ

オグラ金属(株)

本社	栃木県足利市川崎町1310		
TEL	0284-91-4111	FAX	0284-91-4127
HP	http://www.ogura-gr.co.jp/		
創業	1922(大正11)年		
設立	1938(昭和13)年11月		
資本金	9900万円	年商	60億円(2020年3月期)
従業員	330名		